

図書館ウォーカー 2

一旅のついでに図書館へ

オラシオ 著

A5・220頁 定価2,530円(本体2,300円+税10%)

ISBN978-4-8169-3008-9 2024年5月刊行

- 図書館・旅行の新しい楽しみ方を提案し、好評を得たシリーズ第2弾。2019年11月から青森県の地方紙「陸奥新報」に連載中の人気旅エッセイ「図書館ウォーカー」から前版未掲載分61編をセレクト、書き下ろし1編追加し、単行本化。
- 単行本化にあたり、加筆・修正、イラストつきコラムや、旅ガイドとしても機能するように、豊富なカラー写真と公共交通機関+徒歩でのアクセス方法、付近のおすすめスポットなどを追加しました。全都道府県を網羅しています。



【著者略歴】

オラシオ

ライター、エッセイスト。大阪育ち青森市在住。

2019年11月から陸奥新報で「図書館ウォーカー」を連載中。旅先で訪ねた図書館は550以上。公共図書館員として8年間勤務経験あり。

著書に「図書館ウォーカー―旅のついでに図書館へ」(2023)。音楽の分野ではコンピレーションCD「ポーランド・ピアノズム」「ポーランド・リリズム」(CORE PORT) 選曲解説の他、ライター執筆など多数。

noteフォロワー3.5万超 (<https://note.com/horacio/>)

好評2刷!

図書館ウォーカー―旅のついでに図書館へ

A5・230p 定価2,530円(本体2,300円+税10%)

ISBN:978-4-8169-2952-6 2023.1刊



図書館ウォーカーのトリセツ(まえがき)

はじめまして。または、再びお目にかかります。

本書は2023年1月に発売された「図書館ウォーカー 旅のついでに図書館へ」の続編だ。ここでは「まえがき」に代えて、本書の取り扱い説明をしたい。

まず、本書が属するジャンルは大ざっぱに言うと「旅エッセイ」だ。図書館そのものについての記述はテキスト全体の4分の1にも満たない。時にはほとんど図書館に触れない回もある。また、旅エッセイを自称しつつも旅行記的な内容にとどまらず、主に前半に広義のエッセイのように「よもやま話」を展開していることも多い。落語で言うところの「マクラ」のようなものとお受け取りいただければさいわいだ。本書でつづられているのは各都道府県・計62の「図書館をめぐる旅」だが、この「めぐる」は単に図書館巡りというだけでなく「図書館の内も外も含めたあれこれに思いめぐらせる旅」ということだと思っている。寝る前のひまつぶしでも知らない図書館の情報収集でも、お好きなペース、目的でお読みください。

202404

お問い合わせは… **日外アソシエーツ 営業局**

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845

〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <https://www.nichigai.co.jp/>

注文書	図書館ウォーカー 2 一旅のついでに図書館へ 定価2,530円(本体2,300円+税10%) ISBN978-4-8169-3008-9	冊	取扱書店	 9784816930089
注文書	図書館ウォーカー 一旅のついでに図書館へ 定価2,530円(本体2,300円+税10%) ISBN978-4-8169-2952-6	冊		 9784816929526

オーテピア 高知図書館 (高知県)

高知県高知市にあるオーテピア高知図書館(以下オーテピア)が、滋賀県の長浜市立長浜図書館とともに第38回日本図書館協会建築賞を受賞した。これまでの受賞館一覧を見ると、だいたい6割くらいの確率で2館同時受賞となっているようだ。

建築目的だけで訪ねても十分に楽しめるようなオーテピアだが、実はデザイン面よりも面白いトピックがある。全国的に見てほとんど例のない試みを実施している館なのだ。以下ご自分がお住まいの都道府県のことを思い起こしながらお読みいただきたい。ほとんどの都道府県において、都道府県立図書館と県庁所在地の市立図書館は比較的離れた立地になっている。ところが例外もありその一つがオーテ



川が何本か東西に走っているので日没時はこんな風景に



オーテピア横に「図書館通り」の文字が!

ひさしぶりに乗る自転車のガクガク感と道行く自転車の大群の圧力に翻弄されながら、高知市街地をちよこちよこ進む。日没少し手前で、街並みは夕暮れからどんどん夜の度合いを増していく。オーテピアは高知城すぐ横、この市の一番にぎやかな繁華街の真つ只中に建っていて、夜の街に輝くその巨大な姿はさながらもう一つの城のよう。街の観光的な目玉でもあるのか、すぐ近くの道路には「図書館通り」の名前がつけられていて、思わず「おおっ」と声をあげてしまった。

ここは正しくは複合施設で、5階にはプラネタリウムも備えた高知みらい科学館、1階にはバリアフリーな試みの数々も見られる高知声と点字の図書館がある。また図書館内では観光パンフもたくさん配布されていて、好感度爆上がりだ。

高知市にはもう一つ良い思い出が。図書館を出てから街をぶらつき、たまたま入ったラーメン屋の担々麺とニンニク炒飯が本当にうまかった。あの店



高架上の高知駅も独特のデザイン

- ① (JR高知駅からの場合) とさでん交通路面電車池田町通電停から徒歩9分、
- ② 榎形行きの場合は大橋通電停から徒歩3分
- ③ 〒780-0842 高知県高知市追手筋2-1-1
- ④ 平日9時~20時、土日祝9時~18時 (7.8月の土は20時まで)
- ⑤ 月曜 (祝日の場合は開館)、第3金曜 (8月と祝日以外)、
- ⑥ 8月11日を含む4日間、年末年始
- ⑦ 製麺処蔵木、帯屋町商店街

マイ・図書館ウォーカー旅をプランニングして実のものおすすすめだ。とも、日本が「車社会」なのも事実。交通安全白と16歳以上の人口に対する運転免許保有者数の割合を超える。つまり社会は車が使えない人の目設計されていない。のアクセスなら容易な街に公共交通で行こうとす逆に難易度が上がる場合もままある。旅に出る前書館訪問や街歩き時間を確保したり車窓風景に馳せつつ、各路線の時刻表を調べてプランを少し組み立てていく作業にはバスルを解くような楽しみ



『図書館ウォーカー 2 一旅のついでに図書館へ』 内容見本

コラム2編に
イラストつき

コラム4「図書館に行くなら、ぜひ公共交通で」より
イラスト・大崎メグミ